



宮司プレス 第四百四十九号

彦島八幡宮 宮司 ニュース
発行者 彦島八幡宮
宮司 柴田 宜夫

発行 令和元年 十二月二十一日

◇宮司の柴田です。皆様、お待たせ致しました、ちよūd一月ぶりの宮司プレス第四百四十九号の発行です。発行の遅れについてのお詫

(わ)びと弁明(べんめい)とで、紙面がうめつくされるのが、ルーティーン、茶飯事(さは

んじ)となっていました。が、ようやく、「毎月欠かさず発行」という当初のお約束が果たせそうで、軌道(きどう)の修正がなされつつあります。さて、寒さ(ひや)一入(ひとしお)身にしみる

折節(おりふし)、今年も余すところ十日となり、暮れ果(くれは)てて参りました。

◇「天恐地敬人愛(てんきよちけいじんあい)」これは、作家の宮城谷昌光(みやぎや昌光)さん著作の全五巻の「風は山河より」という本に書かれていました。当時最強軍団の武田信玄(たけだののぶひら)に城を攻められても、籠城(ろうじょう)戦に耐えた屈強(くつきやう)の武将であった徳川家の家臣、菅沼一族(すがぬまのいっしゆ)三代の物語でした。その意味は、天地、大自然を恐れ敬い、そして、そこに暮らす人々が和氣藹々(わきあいあい)和(わ)して暮らしていくことの尊(たう)さを説いているわけです。神社神道の信仰の三本柱

は、「大自然の恵みに感謝する、人と人のつながりを大事にする、そして、前向きに人生を楽しむ」ということなのです。まさに、神社神道の信仰の三本柱は、「天恐地敬人愛」といつても過言(かごん)ではありません。

◇さて、令和となり、初めての迎春(いつしん)であります。先月号の宮司プレス第四百四十八号にも詳述(しょうじゆつ)しましたが、令和になって災害(さいがい)が数多く発生(はっせい)しました。アメリカのユーラシアグループ社長のイアン・ブレイマー(ian blaymer)氏は、今、世界は、「未曾有(みぞう)の難局(なんきよく)」に直面(じつめん)していると警鐘(けいしゆ)されています。その一つに、気候変動(きこうへんどう)の要素(ようす)を挙げられています。地球温暖化(ちきうわんぬんか)の問題は数十年前から存在(そんざい)していたようですが、異常気象(じやうきさう)の頻度(ひんどう)と深刻(しんこく)さが増したことで、取り組まなければならない重要な政治課題(せいじかだん)となりつつあるそうです。

◇紀元前六世紀(きげんぜんりくせい)、中国春秋時代(ちゆうごくしゅうしゅう)の鄭(てい)の国の宰相(さいしやう)で、中国最初の成文法(せいぶんぽう)を作ったとされる子産(しさん)は、「礼(れい)とは、天の経(けい)、地

の義(ぎ)、民の行(こう)である」と説きました。経(けい)とは、もともと織物(おりもの)のたて糸(いと)のことで、このたて糸(いと)があつてはじめて布(ぬい)ができるわけです。したがって、人生(じんせい)を織(おり)る場合(ばあひ)、経(けい)とは生き方の規範(きはん)になるもので、その規範(きはん)を天に求めよということ(こと)を、みじかく、「天の経」と説いたのです。義(ぎ)もやはり規範(きはん)を意味(いみ)します。で、「地の義(ぎ)」とは、道徳倫理(どうとくりんり)です。民(たみ)は天(あま)に学び、地(ち)にならつたことを実行(じっぎん)してゆく、それが、「民の行(こう)」であります。一國の指導的立場(しうどうてきたてばた)にある人は、天(あま)と地の規範(きはん)を民(たみ)に認識(にんしき)させなければ、民(たみ)は実行(じっぎん)のしようがなく、あるいは、実行(じっぎん)しても不調和(ふてうわ)が生(は)じれば正(ただ)さなければなりません。その両者(りやうしや)のためにあるのが礼(れい)なのであると論(ろん)していただきます。これが、政治(せいじ)の理想(りやうきやう)の姿(すがた)でありますから、「天の経(けい)、地の義(ぎ)、民の行(こう)」で、前述(ぜんじゆつ)の(ぜんじゆつ)の重要な政治課題(せいじかだん)の克服(こくふく)を願(ねが)うのです。「祭り」には、神様(かみさま)に心(こころ)から従(したが)うという「まつらふ」という意味(いみ)がこめられています。「天神地祇(てんしんちぎ)」、神様に心(こころ)から従(したが)ふ、「天の経(けい)」「地の義(ぎ)」の生活(せいかつ)が、「民の行(こう)」、我々(われわれ)と神様(かみさま)との礼(れい)、神様(かみさま)と我々のしきたり、「神明(しんめい)の序(じよ)」であり、「天恐地敬人愛(てんきよちけいじんあい)」という、敬神生活(けいじんせいかつ)です。来る年(くるとし)も、「天の経(けい)」「地の義(ぎ)」「民の行(こう)」、

「天恐地敬人愛(てんきよちけいじんあい)」の暮(く)らしてありますように。

◇十二月の祭典行事会議等活動報告ならびに予定

▼月次祭 *十二月一日、十五日

▼貴布禰神社月次祭 *十二月一日

▼海士郷恵比須神社祈漁祭(きりようさい)
*十二月三日

▼大注連縄(おおしめなわ)おろし
*十二月八日

▼朝粥会 *十二月二十一日

▼田の首八幡宮注連縄(しめなわ)おろし
*十二月二十二日

▼正月臨時巫女説明会 *十二月二十七日

▼貴布禰神社迎春準備清掃作業
*十二月三十日

▼大祓式、除夜祭(じよやさい)
*十二月三十一日

▼八幡宮関係団体

▼敬神婦人会役員会 *十二月三日

▼維蘇志会神恩感謝祭(しんおんかんしゃ
さい)、ならびに忘年会 *十二月七日

▼奉賛会、維蘇志会、敬神婦人会合同忘年
会 *十二月八日

▼山口県神社庁

▼役員会 *十二月四日

▼身分詮衡(せんこう)委員会
*十二月四日

▼下関西ロータリークラブ
例会 *十二月十一日

◆年次総会 *十二月十八日

◆定例理事会 *十二月十一日

◆奉納例会 *十二月二十五日
※彦島八幡宮へ参拝

◆人権擁護委員関係

◆常設相談所の人権相談
*十二月二日

◆美祢社会復帰促進センター教誨師(きよ
うかいし)活動

◆新入時講話 *十二月十八日

◆学校(コミュニティスクール)関係

◆玄洋中学校学校運営協議会
*十二月二日

◆あいさつ運動 *十二月十日

◆下関木鶏クラブ十二月例会
*十二月一日

※下関木鶏クラブとは、「月刊誌 致知」
の読書感想を参加者が発表し、不肖、
柴田宮司が講評するサークル

◆会社関係忘年会

◆キャボットジャパン *十二月五日

◆下関三井化学 *十二月十日

◆彦島製錬 *十二月十二日

◆講演活動

◆山中町自治会ウエルカムサンデーに
て「彦島の歴史と文化」と題して講演
*十二月一日

◇一月の祭典行事会議等活動報告ならびに予定

▼初太鼓 *一月一日午前0時

▼歳旦祭 *一月一日

◆彦島八幡宮 *午前八時半

◆田の首八幡宮 *午前0時半

◆福浦金刀比羅宮 *午前一時

◆貴布禰神社 *午前六時半

◆元始祭 *一月三日

◆会社関係新年安全祈願祭参拝
*一月四日

◆六連島八幡宮歳旦祭 *一月十一日

◆田の首八幡宮どんど焼き *一月十二日

◆彦島八幡宮どんど焼き *一月十三日

▼八幡宮関係団体

◆早起会新年会 *一月十二日

◆維蘇志会新年会 *一月十三日

▼山口県神社庁

◆顧問参与会 *一月二十二日

▼下関西ロータリークラブ

◆例会 *一月八日、十五日、二十九日

◆夜間例会 *一月二十二日

◆定例理事会 *一月八日

▼美祢社会復帰促進センター活動

◆集合日教誨(男子・女子) *一月二十七日

▼学校(コミュニティスクール)関係

◆あいさつ運動 *一月十日

▼下関木鶏クラブ例会 *一月三十日